

# 色濃い独自文化 独立に高い関心

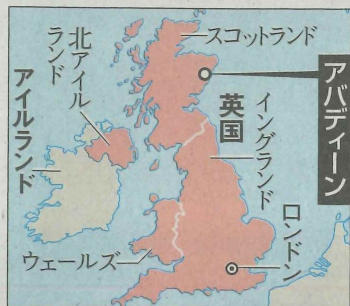


いが、街に長く住む年配の女性から、グラバーが少年時代を過ごした家が残っていると教わった。以前は公開されていたが、現在は見学できないようだ。

昨年9月から、英国北部スコットランドのアバディーンに留学している。街では伝統衣装のキルトを着たバグパイプ奏者に遭遇することもしばしば。自然が雄大で、休日は友人らとハイキングに行くこともある。

アバディーンは長崎市の市民友好都市の一つ。長崎で活躍した貿易商トーマス・グラバーの故郷で、大学の寮近くにある教会の墓地には彼の兄の一家が眠る。こちらでの知名度は高くな

アバディーンでは日本に興味を持つ人が予想以上に多い。日本文化を紹介する催しが毎年開かれていて、茶道や書道、折り紙を体験できたり、和楽器の演奏が披露されたりするという。毎週水曜には、日本語を学ぶ学生や地域の人たちの集まりに参加し、日本語を学ぶ手助けをしたり、日本文化について語り合ったりする。「君の名は。」やジブリなど、アニメの人気の特に高い。和食をきっかけに日本に興味を持つ人も多いようで、みんなで巻きずしをつくって食べたこともある。街の日本



アバディーン



バグパイプの演奏 昨年9月、英アバディーン

## 日本に興味持つ人 予想以上

@英国・アバディーン大



日本文化に興味のある人が集まり、巻きずしを楽しんだ=2月、英アバディーン

食レストランはいつも盛況だ。大学の留学説明会にボランティアとして参加すると、日本のブースは大人気だった。アバディーンに住む日本人は少なく、大学に日本語学科があるわけでもない。それにもかかわらず、遠く離れた土地で日本とのつながりを様々な機会を感じる事ができる。

一方で、街の人はスコットランド文化をとて大切にしている。1月下旬、国民的詩人の生



友人らとハイキングする筆者(中央) =昨年9月、英アバディーン

誕を祝う行事「バーンズ・ナイト」があった。羊の内臓を胃袋に詰めた「ハギス」と呼ばれるスコットランドの伝統料理を、音楽やダンスとともに楽しむ。街で掲げられる国旗は、英国ではなくスコットランドのものが圧倒的に多い。留学前は「英国に行く」という感覚だったが、街には思っていた以上に「スコットランド」が息づいていた。スコットランドでは英国からの独立が長年議論され、授業や会話の中でもよく話題にのぼる。大学では、独立に関するイベントへの参加を呼びかける学生たちも見かける。英国の欧州連合(EU)からの離脱(ブレグジット)を巡っては、スコットランドでは残留を望む人が多いとされる。英国が決めた離脱予定日は3月29日。歴史的な瞬間にこの地で立ち会えるのが、今から楽しみだ。(3年・森山佳南子)